

# 事例紹介 05

## 一般財団法人 三重県環境保全事業団

環境保全事業

所在地 三重県津市河芸町上野3258

従業員数 111名



HPIはこちら



テーマ

### 生成AI活用による組織的な業務効率化

#### DXチャレンジのきっかけ

DX推進グループが発足したことを機に、本格的なDXへの取り組みをスタートしました。業務時間の削減や職員がより創造的な業務に集中できる時間を生み出すことを目指す中で、自分たちだけでは気づけない効率化の可能性があると感じ、専門家による伴走支援の必要性を認識しました。また、DXを組織全体へ浸透させるという課題の解決に向けたサポートを求め、本チャレンジへの参加に至りました。

#### 具体的な課題

##### 01 AI活用の停滞

職員の生成AIの活用が少なく、機能は知っているも実務への応用方法や運用ルールが不明確となっている。

##### 02 情報検索の複雑化

マニュアルや規定の数が膨大なため、問い合わせ対応や関連情報の検索に時間を要している。

#### 伴走支援取組内容

##### 総務部でのAI実務トライアル

総務部をAI活用先行モデルとして会議資料や議事録作成等の活用事例を作成し、その成果とノウハウを他部署へ横展開することで、組織全体の業務効率化について検討。

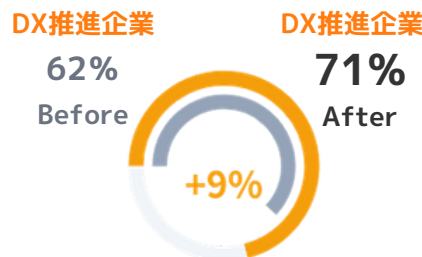
##### ナレッジベース構築

規程やマニュアルをAIに学習させ、チャットで即時回答する仕組みを構築し、学習資料の精査等による検索精度の向上や職員の活用定着方針を検討。

#### 得られる成果（未来予測）

- 資料・議事録作成時間  
最大 **約80%削減**（トライアルから推測）
- RAG機能活用**による  
検索時間の**縮小**

#### DX推進度の変化



~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

#### 企業担当者の声

専門家との対話を重ねる中で、自分たちでは気づけなかった視点やアイデアをいただけたことが、今回の大きな学びとなりました。伴走支援のおかげで取り組みへの責任感と主体性が高まり、チームとしての意識向上にもつながりました。スケジュールがタイトな状況でも最後まで柔軟かつ丁寧に支援いただき、しっかりと道筋をつけていただけたことに感謝しております。

#### 今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

伴走支援を最大限に活かすためには、受講前の準備がとて大切です。支援期間中はどうしても時間が限られるため、「なんとなく受けてみよう」という気持ちだけでスタートしてしまうと、何をすべきか整理できないまま時間が過ぎてしまうことがあります。「この課題を解決したい」という具体的な目標を事前に決めておくことで、支援の質がぐっと高まります。